

食肉検査便り

発行年月日

令和8年(2026年)7月29日 ◆第77号◆

発行者: 滋賀県食肉衛生検査所

(近江八幡市長光寺町1089-10)

TEL: 0748-37-7037

FAX: 0748-37-5854

ホームページアドレス:

<https://www.pref.shiga.lg.jp/syokuniku/>

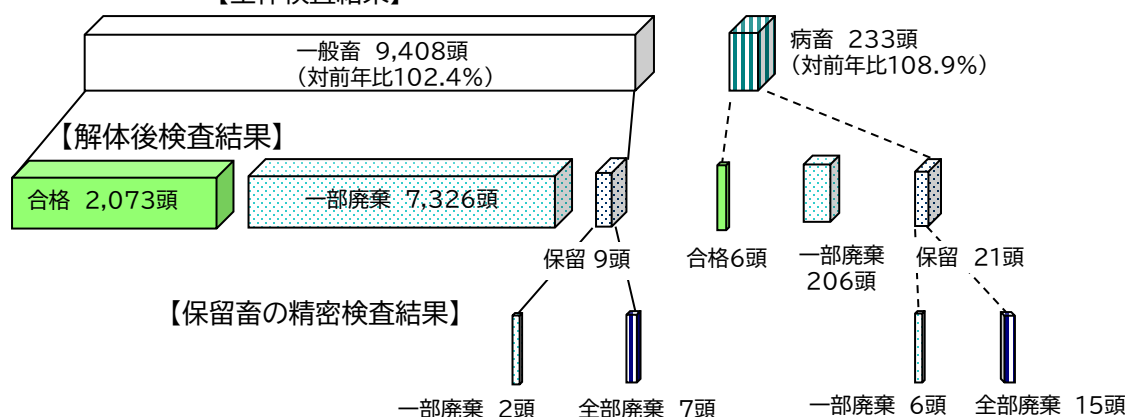
1. 令和7年度 と畜検査結果

令和7年度のと畜検査結果は下表のとおりでした。

また、滋賀食肉センターにおける令和7年度のと畜頭数は9,641頭となり、前年度を上回りました。

牛と畜頭数 9,641頭(対前年度比:102.5 %)

【生体検査結果】

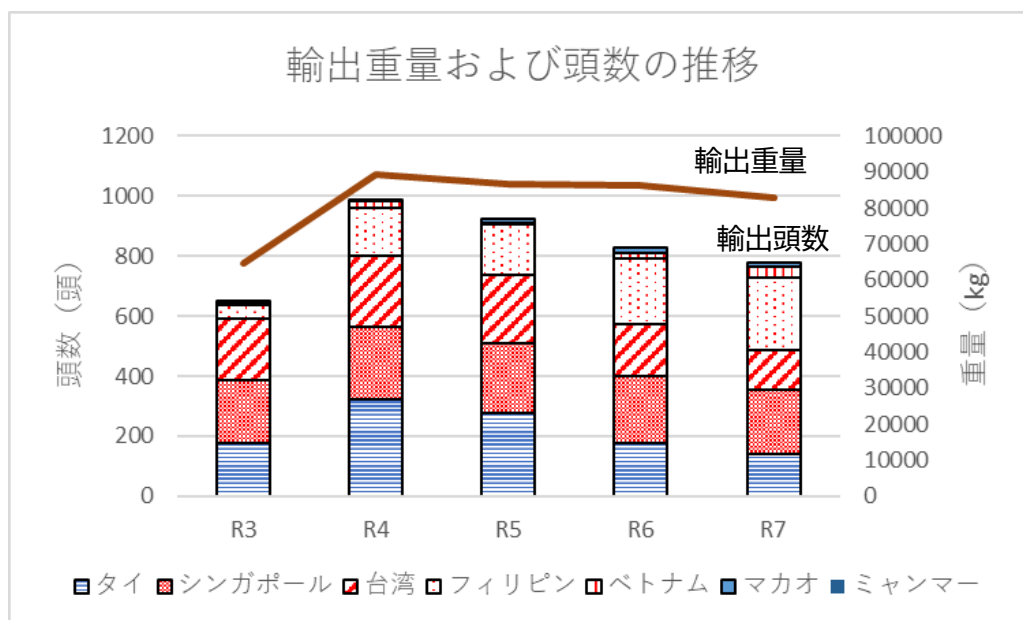


全部廃棄した22頭の内訳

(牛伝染性リンパ腫(従前の牛白血病) 8頭、敗血症 5頭、尿毒症 5頭、膿毒症 2頭、高度の黄疸 2頭)

2. 令和7年度 輸出実績

牛肉の輸出については、令和7年度の輸出頭数は777頭、輸出重量82,893kgとなりました。



3. 牛の健康管理 ～肝膿瘍について知ろう～

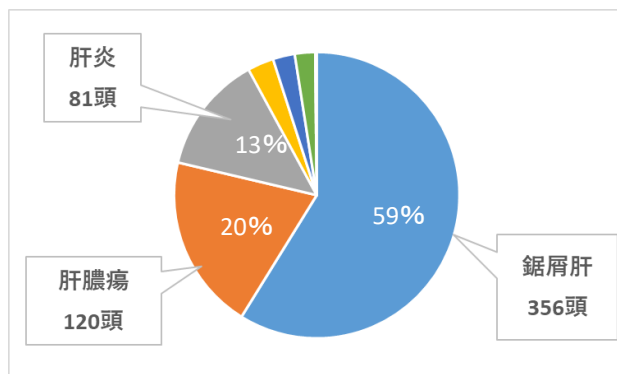


・滋賀食肉センターでの発生状況

・図は令和8年4月～6月に滋賀食肉センターで確認された肝臓の疾病です。

一番多い疾病が鋸屑肝で、二番目に肝膿瘍が多く見られます。

今回は、肝臓疾病の中でも大きな経済損失につながり得る肝膿瘍についてご紹介します。



【図】令和8年4月～6月 肝臓疾病の内訳

・肝膿瘍の原因

・肝膿瘍の主な原因は、第一胃のトラブルです。以下のプロセスで発生します。

- ▶ 濃厚飼料の過剰給与や粗飼料の不足により、第一胃内が強い酸性に傾く
- ▶ 胃内が強い酸性に傾くと、第一胃の粘膜が損傷を受ける
- ▶ 第一胃の傷口からフソバクテリウムなどの化膿菌が侵入
- ▶ 血液を通じて肝臓に運ばれることで、肝膿瘍が発生



【写真】肝膿瘍(○で示した部分)

・食肉検査での対応

・と畜検査で肝膿瘍が見つかった場合、以下の対応になります。

- ▶ 膿瘍の程度によって、肝臓を一部廃棄もしくは全部廃棄の措置
- ▶ 肝膿瘍が悪化すると横隔膜に膿瘍が転移したり、菌が全身にまわる敗血症になる可能性
- ▶ 敗血症の場合、枝肉も全部廃棄

・予防

- ▶ 濃厚飼料の過剰給与を避ける
- ▶ 粗飼料の給与を確保する
- ▶ 第一胃内の環境を正常に保つことが重要

出荷した牛に肝膿瘍があったかどうかは、検査所から送付している「と畜検査結果」で確認することができます。

食の安全・安心のために、ご協力お願いします。